宇都宮大学国際学部研究論集　2015　第40号，59－68

群馬県における外国人生徒の進路状況
―第１回調査の結果報告―

若　林　秀　樹

はじめに

HANDS プロジェクト（文部科学省特別経費プロジェクト「北関東を対象とした外国人児童生徒支援のための地域連携事業」H25.4 ～、「グローバル化社会に対応する人材養成と地域貢献－多文化共生社会実現に向けた外国人児童生徒教育・グローバル教育の推進－」H22.4 ～ H25.3）では、これまで栃木県における外国人生徒の進路について４回の調査をおこなってきた。一方、群馬県でも、外国人の居住・労働形態など栃木県との共通点が多く、学校現場の外国人児童生徒教育の面など、共通した多くの課題を抱えている。そこで昨年度、栃木県におけるこれまでの調査の成果と、群馬県における本調査の有効性について、群馬県教育委員会に説明し理解を得、群馬県内市町村教育長会議において賛同を得て実施したのが、HANDS プロジェクト「群馬県における外国人生徒の進路状況調査（第１回）」である。本調査は、平成 27 年２月に HANDS プロジェクトから群馬県内各市町村教育委員会に調査票を送付、各中学校の協力により３月 31 日現在の外国人生徒の進路状況を調査し、５月に回収が完了したものである。ここでは、この進路調査の結果について基礎的な事実を整理すると共に、調査で見えてきた特徴や課題についていくつか指摘する。

ここで、文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」（平成 26 年度）の結果から、平成 26 年５月１日現在のデータを整理しておく。

全国の公立学校に在籍している外国人児童生徒数は 73,289 人（平成 24 年度調査より 1,744 人増加）、そのうち、日本語指導が必要な外国人児童生徒は 29,198 人（平成 26 年度調査より 2,185 人増加）である。日本語指導が必要な児童生徒の主要母語別状況は、ポルトガル語 28.6％、中国語 22.0％、フィリピン語 17.6％、スペイン語 12.2％となり、この４言語で全体の 80.4％を占める。また、日本語指導が必要な日本人児童生徒は 7,897 人と、平成 26 年度調査と比較して 28％の 1,726 人増加している。

群馬県内で日本語指導を必要とする外国人児童生徒数は 813 人で、その主要学校別内訳は、小学校 569 人、中学校 203 人、高等学校 32 人となっている。また、その主要母語別内訳は、ポルトガル語 349 人（42.9％）、スペイン語 187 人（23.0％）、フィリピノ語 98 人（12.1％）、中国語 41 人（5.0％）であり、ポルトガル語とスペイン語を母語とする南米系児童生徒の割合が高いこと、特にポルトガル語を母語とする児童生徒の割合が非常に高いことが特徴である。

Ⅰ調査の目的と方法

調査の目的は、群馬県における外国人生徒の進路状況の把握にある。調査対象は、群馬県の全ての公立中学校に在籍する平成 26 年度第３学年在籍生徒のうち、①外国籍生徒、および②日本国籍で「日本語指導が必要な生徒」として把握されている生徒とした。外国人生徒の学級担任あるいは第３学年担当の教員に、①か②のいずれかに該当する生徒の進路について回答してもらうという方法をとった。

調査票では、性別、国籍、母語、来日年齢、就学歴、進路希望、受検方法、平成 27 年３月 31 日現在で確定している進路状況を聞いた。調査票は 166 校の県内全公立中学校に対し、管轄教育委員会の担当者を通し配布した。調査の協力依頼文において、①か②に該当する生徒が在籍していない場合でも、「該当者なし」として返答してもらうよう記述した。166 校のうち 48 校から、①か②に該当する 189 人の生徒について回答があった。

111校からは「該当者なし」との回答があった。２つの自治体(7校分)からは返答が得られなかった。

平成26年5月1日現在、群馬県内公立小中学校の外国人児童生徒数は、小学校1485人、中学校686人である。そのうち、日本語指導が必要な児童生徒数は、小学校569人（38.3%）、中学校203人（29.5%）である。群馬県における外国人児童生徒在籍数の学年別内訳は発表されていないが、中学校における外国人在籍数686人を仮に3等分した場合の1学年在籍数は228人と推定される。そのことから、回答があった189人のデータは、平成26年度推定卒業生数228人の82.8%にあたる。

Ⅱ生徒の属性と進路結果の概要

189人の生徒の性別は、男子96人（50.8%）、女子93人（49.2%）である。主な母語別状況は、ポルトガル語が70人（37.0%）と最も多く、スペイン語47人（24.9%）、フィリピノ語（タガログ語）15人（7.9%）、中国語12人（6.3%）などである。また、主な国籍別状況は、ブラジルが80人と最も多く全体の42.3%を占め、続いてペルー38人（20.1%）、フィリピン21人（11.1%）、中国8人（4.2%）、ベトナム6人（3.2%）、パキスタン5人（2.6%）となっている。

生徒の国籍と母語の関係を、人数の多い6国について見てみる。ブラジル国籍80人については、ポルトガル語70人(87.5%)、日本語3人(3.8%)、スペイン語1人（1.3%）、無回答6人（7.4%）である。ペルー国籍38人については、スペイン語37人（97.4%）、日本語とスペイン語1人（2.6%）である。フィリピン国籍21人については、フィリピノ語（タガログ語）13人（61.9%）、タガログ語とビサヤ語2人（9.5%）、英語1人（4.8%）、日本語1人（4.8%）、無回答4人（19.0%）である。中国国籍8人については中国語8人(100%)、ベトナム国籍6人についてはベトナム語6人(100%)、パキスタン国籍5人についてはウルドゥ語5人（100%）である。

日本語指導の有無に関しては、中学3年時に何らかの日本語指導を受けていた生徒が189人中34人（18.0%）、受けていなかった生徒が153人(81.0%)、無回答が2人（1.0%）である。群馬県には、日本語指導が必要な児童生徒が多く在籍する小中学校に対し、日本語指導のための特配教員を配置する制度がある。平成26年度は、県内小学校28校、中学校17校、計45校に配置されていた。今回調査対象となった189人についてみてみると、日本語指導のための特配教員配置校に在籍していた生徒が122人（64.6%）、配置されていない学校の在籍が67人（35.4%）である。

来日時年齢別状況は、日本生まれを意味する0歳が43人（22.8%）、1-5歳13人（6.9%）、6-9歳17人（9.0%）、10-12歳15人（7.9%）、13歳以上26人（13.8%）、「分からない」を含む無回答が75人（39.7%）であり、無回答を除いては日本生まれの生徒が最も多かった。来日年齢が13歳以上の生徒の母語別状況を見ると、フィリピノ語（タガログ語）が7人と最も多く、同言語を母語とする15人中46.7%、また、中国語も6人（同12人中50.0%）と、2言語ともに2人に1人の割合だった。それに対して、ポルトガル語は3人（同70人中4.2%）、スペイン語は1人（同47人中2.1%）と少ないものだった。以上のことから、来日時年齢13歳以上は中国やフィリピンなどアジアからの生徒が多いこと、人数の多い南米系生徒の中には、13歳以上で来日した生徒は少ないことが分かった。

189人の母語と来日時年齢を改めて整理すると、母語ではポルトガル語が一番多く70人(37.0%)、来日年齢に関しては日本生まれが43人（22.8%）で最も多い。このことからは、日本において長く定住化傾向が見られる南米系の生徒については、日本生まれ日本育ちの生徒が多くなっていること。中国やフィリピンなどアジアからの生徒には、まだ来日して間もない生徒が多いことが分かり、学校現場における支援のニーズが、従来の南米系生徒が多かった時期から、多様な地域からの生徒対応へと、移り変わっていることが推測できる。

表1は、189人の進路希望を示している。進路希望については、進学希望者が172人（91.0%）と圧倒的に多かった。残りの17人（9.0%）の内訳は、就職1人（0.5%）、帰国予定1人（0.5%）、未定9人（4.8%）、無回答6人（3.2%）となって

いる。

そして表２は、進路結果を示している。学校種別の進学者数と、その数が全体の人数に占める割合は、公立全日制81人（42.9%）、公立フレックス制[1]29人（15.3%）、公立定時制９人（4.8%）、公立通信制１人（0.5%）私立全日制43人（22.8%）、国立（高専などを含む）１人（0.5%）外国人学校１人（0.5%）であった。

最終的な進路結果を見ると、何らかの上級学校に進学した生徒は189人中165人（87.3%）を占め、高等学校（高専等を含む）に進学した生徒は164人（86.8%）であった。

また、特配教員が配置されていた中学校の生徒122人の進路結果については、公立高等学校全日制57人（46.7%）、公立フレックス制21人（17.2%）、公立定時制６人（4.9%）、公立通信制１人（0.8%）、私立全日制25人（20.5%）、帰国３人（2.5%）、未定８人（6.6%）、その他１人（0.8%）となっている。

Ⅲ日本語指導必要の有無別進路結果

３年時における日本語指導の有無と進路結果の関係が表れているのが、表３である。

日本語指導「有」36人の進路結果は、公立全日制４人（11.1%）、公立定時制５人（13.9%）、公立フレックス制８人（22.2%）、私立全日制８人（22.2%）、外国人学校１人（2.8%）、就職１人（2.8%）、帰国２人（5.6%）、未定７人（19.4%）となっている。

日本語指導「無」151人の進路結果は、公立全日制76人（50.3%）、公立定時制４人（2.6%）、公立フレックス制21人（13.9%）、公立通信制１人（0.7%）、私立全日制34人（22.5%）、国立１人（0.7%）、就職１人（0.7%）、帰国２人（1.4%）、未定10人（6.6%）、無回答１人（0.7%）となっている。

日本語指導「有」の生徒の高校進学率は69.4%（25人）であったが、そのうち32.0%（８人）が公立フレックス制に、20.0%（５人）の生徒が公立定時制に進学している。公立全日制への進学16.0%（４人）に比べて、日本語指導「有」の生徒の、フレックス制や定時制に進学するケースが目立つ。

日本語指導「無」の生徒の高校進学率は90.7%（137人）であり、その55.5%にあたる76人が公立全日制に進学している。一方、公立フレックス制と公立定時制に進学した生徒は合計しても18.2%（25人）と、日本語指導「有」の生徒の結果とは大きな違いが出た。

Ⅳ国籍別進路結果

表４は、国籍別の進路結果を示している。ここでは、人数の多い上位６国の生徒の進路状況を示す。

ブラジル国籍生徒80人の進路は、公立全日制33人（41.3%）、公立定時制４人（5.0%）、公立フレックス制15人（18.8%）、私立全日制15人（18.8%）、国立１人（1.3%）、外国人学校１人（1.3%）、就職１人（1.3%）、帰国２人（2.5%）、未定８人（10.0%）である。

ペルー国籍生徒38人の進路は、公立全日制21人（55.3%）、公立定時制１人（2.6%）、公立フレックス制７人（18.4%）、公立通信制１人（2.6%）、私立全日制６人（15.8%）、未定２人（5.3%）である。

フィリピン国籍生徒21人の進路は、公立全日制４人（19%）、公立定時制１人（4.8%）、公立フレックス制１人（4.8%）、私立全日制６人（28.6%）、就職１人（4.8%）、帰国１人（4.8%）、未定６人（28.7%）、無回答１人（4.8%）である。

中国国籍生徒８人の進路は、公立全日制２人（25.0%）、公立定時制１人（12.5%）、私立全日制５人（62.5%）である。

ベトナム国籍生徒６人の進路は、公立全日制３人（50.0%）、公立フレックス制１人（16.7%）、私立全日制２人（33.3%）である。

そして、パキスタン国籍生徒５人の進路は、公立全日制１人（20.0%）、公立フレックス制２人（40.0%）、私立全日制１人（20.0%）、未定１人（20.0%）となっている。

Ⅴ母語別の進路結果

次に、進路結果を母語別の視点から見てみる。表５は、進路結果を母語別に表したものである。ここでは、該当する生徒が10人以上の主要４母語別進路状況を示す。

ポルトガル語を母語とする70人については、公立全日制31人（同一言語を母語とする中の44.3％）、公立フレックス制13人（同18.6％）、公立定時制3人（同4.3％）、私立全日制14人（同20.0％）である。

スペイン語を母語とする47人については、公立全日制23人（同48.9％）、公立フレックス制9人（同19.1％）、公立定時制3人（同6.4％）、私立全日制9人（同19.1％）である。

フィリピノ語（タガログ語）を母語とする15人については、公立全日制4人（同26.7％）、公立フレックス制1人（同6.7％）、公立定時制1人（同6.7％）、私立全日制5人（同33.3％）である。

中国語を母語とする12人については、公立全日制3人（同25.0％）、公立フレックス制1人（同8.3％）、公立定時制1人（同8.3％）、私立全日制7人（同58.3％）となっている。

Ⅵ海外帰国者等入学者選抜申請状況

『群馬県公立高等学校入学者選抜実施要項』によれば、県立高等学校の全日制とフレックス制を受験する海外帰国者等が、日本に居住して3年に満たない場合（当該生徒が中学校に入学する年の4月1日以降に日本での居住を開始した場合）、「海外帰国者等入学者選抜」を受けることができる。これは、前期試験、後期試験に共通した制度であり、所定の書類（様式13）を願書と共に提出することにより希望することができる。『群馬県公立高等学校入学者選抜実施要項』には、この希望が出された場合、「高等学校長は、十分配慮の上、提出された書類及び検査等を総合して選抜するもの」とあるが、実際には、学力試験において受検科目を減らすなどの配慮を受けることもある。

今回の調査対象189人のうち、「海外帰国者等入学者選抜」を受ける資格があった生徒を見てみると、日本での就学期間1年未満が8人、1年以上3年未満の生徒が11人、合計19人（189人中10. 1％）の生徒が、居住期間に関する要件は満たしていた。

しかし、調査結果によれば、「海外帰国者等入学者選抜」を希望して県立高等学校を受検した生徒は、わずか1人（資格ある19人のうち0.5％）であることがわかった。この生徒は、特配教員のいない学校に在籍する中国語を母語とする男子で、公立フレックス制に進学した。

ここで、「海外帰国者等入学者選抜」の要件を居住期間において満たしていた、19人について見てみる。

まず、進路希望については、公立高等学校（全日制またはフレックス制）希望が11人（57.9％）、私立高等学校希望が4人（21.1％）、就職希望が1人（0.5％）、未定が3人（15.8％）である。

次に、公立高等学校（全日制またはフレックス制）の受検状況を見ると、全日制を受検した生徒が2人（10.5％）、フレックス制が5人（26.3％）の計7人であり、公立高等学校（全日制またはフレックス制）希望11人のうち、63.6％にすぎない。

次に、合否結果を見ると、全日制合格が1人（公立全日制およびフレックス制希望11人のうち9.1％）、フレックス制合格が4人（同36.4％、申請した1人を含む）であり、不合格者2名のうち1人は私立高等学校へ進学、もう1人は帰国したことが分かった。

以上のことから、「海外帰国者等入学者選抜」申請の要件を満たした19人の中に、県立高等学校の全日制またはフレックス制への進学を希望していた生徒は11人いたが、半数以上の6人が目標を達成することができなかったことがわかる。

Ⅶ主な特徴と今後の課題

群馬県では、調査対象生徒189人中、ブラジル国籍が4割を超える80人（42.3％）在籍するなどの特徴は見られるが、ブラジルやペルーなど南米系の生徒が約6割を占め、次にフィリピン国籍や中国国籍の順に多い点など、外国人生徒全体の構成は、栃木県と同様である。今回は1回目の調査ということで、今後調査の回数を重ねるごとに明らかになる事も多いと思われるが、現時点で気付いた主に2点について述べようと思う。

一つ目は、外国人生徒が在籍する地域に、大きな偏りがあることがわかった。今回の報告には県内における市町村別在籍数を明示していないが、35市町村中19の市町村から、該当生徒なしとの回答を得ている。外国人生徒の在籍は、前橋市や高崎市など都市の限られた地域や、予てから外国人が多く居住している東毛地区に集中し、結果と

して、県の中央部から西部にはほとんど見られない状況である。このことは、外国人児童生徒教育に関する問題の把握や、指導に関するノウハウなどが、限られた地域にとどまってしまう危険性を産む。189人の生徒は計48校に在籍していることが分かったが、そのうち20校が1人のみの在籍、7校が2人のみの在籍など、外国人児童生徒の散在化が見られる。散在化は全国的な傾向でもあり、これは、どの学校にも、日本語の分からない児童生徒が突然編入してくる可能性がある事を意味している。そのような状況に備えるためには、外国人児童生徒教育の実績が豊富な学校や地域の情報を、普段から広く共有し、協議や研修をしておくことが必要となる。

二つ目は、「海外帰国者等入学者選抜」の扱いについてである。Ⅵで述べたとおり、群馬県立高等学校の全日制とフレックス制を受験する海外帰国者等が、日本に居住して3年に満たない場合、「海外帰国者等入学者選抜」を申請することができ、受検時の配慮の中には、学力試験における受検科目の軽減も含まれている。このような制度があるにもかかわらず、今回の入試ではその申請が1件しかなかったという結果に注目したい。昨年秋に本調査の実施を計画してから、群馬県内、主に東毛地区の中学校や教育委員会を訪問する機会が何度かあった。その際にも、「海外帰国者等入学者選抜」について意識的に話題にしてみたのだが、関係者の間でこの制度が認知されているという印象は持てなかった、というのが正直な感想だ。このことについては、今回の調査だけでは把握できない、ほかの事情や複雑な要素もあるかと推測する。しかし、「海外帰国者等入学者選抜」を申請する資格のあったと思われる19人の中には、県立高等学校進学が達成できなかった6人以外にも、この制度を意識して学習すれば県立高等学校への進学を目標に掲げた生徒がいたのかも知れないと考えると、本制度について早い機会での検証と、その後の積極的な運用を希望する。

その他として、「日本語指導のための特配教員の配置」についても、気付いたことを簡単に述べたい。本調査には、各学校の回答者に対し「貴校には県から外国人生徒のための専任教員が配置されていますか」という質問が設けてあった。しかし、この問いに対して、「はい」と回答した学校は、中学校における17設置校中10校に過ぎなかった。多忙な時期に対応していただく調査のため、間違いが生じたことも考えられるが、平成26年度には、文部科学省から「特別の教育課程」が施行され、日本語指導が必要な児童生徒には、教員一人一人が積極的に関わっていくことが謳われているなか、特配教員の配置という利点が最大限に生かされるようにと願う。

今回の調査結果からは、調査対象生徒189人中165人が進学を果たし、外国人生徒の進学率は87.3%という数字になった。これは、全国的な外国人の進学率と比較しても、十分に高い数字と言える。しかし、外国人が多く住む地域の高等学校やフレックス制高等学校に外国人が集中した場合、高等学校における教育や支援はどうすればよいのか、他の言語を母語とする生徒と比較して、フィリピノ語（タガログ語）を母語とする生徒の進学率が低い（73.3%）などの実態にどう取り組めばよいのかなど、87.3%という数字の表面からは分からない、多くの課題もこの調査を通して分かった。

学校において外国人児童生徒を支援することは、単に外国人を助けることを意味するのではない。かれらと生活を共にする日本人の子どもは、お互いの違いを認め合う大切さを学ぶ機会を与えられ、外国人の子どもの努力や成果を見て自分自身が奮起する機会を持つなど、新たな教育のチャンスが生まれる場となる。また教員自身も、多様性を認めともに高め合うという、未来の教育実現に向けて、格好の機会が与えられていると言える。地域社会を形成する視点において、学校ができる事はとても大きい。群馬、栃木という共通点の多い2地域の将来のために、本調査を通して形成された新たなネットワークを通し、これからも取り組みを続けたいと考えている。最後になるが、本調査の実施に関してご理解をいただいた、群馬県教育委員会をはじめとする35市町村教育委員会の方々、そして、多忙極まる年度切り替えの時期に、調査を実施していただいた群馬県内公立中学校現場教員の方々に、心からお礼を申し上げたい。

[1] 従来の定時制高等学校を、多様なニーズに対応するべくカリキュラムを見直した高等学校で、近年各県に設置されている。その多くは男女共学制、単位制で、午前・午後・夜間の3部制である。通学する時間帯が選択できることや、3部制化による定員の増加などにより、外国人生徒の進路希望先としても注目されている。進学した生徒の日本語力不足や、保護者の母語の多様化など、高等学校側の対応力強化などが課題となっている。

参考文献

田巻松雄、2014『栃木県における外国人生徒の進路状況－4回目の調査結果報告－』宇都宮大学国際学部研究論集2014第38号、53-60頁

小島祥美、2012『2011年度、外国人生徒と高校に関わる実態調査報告書』科学研究費補助金若手研究B（課題番号22730673）「ヒューマン・グローバリゼーションにおける教育環境整備と支援体制の構築に関する研究」（研究代表：小島祥美）

群馬県教育委員会『群馬県公立高等学校入学者選抜実施要項』（平成27年度）

栃木県教育委員会『栃木県立高等学校入学者選抜実施細則』（平成27年度）

本稿は、平成27年度文部科学省科学研究費基盤研究A「将来の『下層』か『グローバル人材』か - 外国人児童生徒の進路保障実現を目指して -」（課題番号26245056、研究代表者田巻松雄）の研究成果の一部である。

表１　進路希望

	人数（人）	割合（%）
県内公立	110	58.2
県外公立	7	3.7
県内私立	22	11.6
県外私立	10	5.3
専修学校など	1	0.5
校種未定進学希望	22	11.6
就職	1	0.5
帰国	1	0.5
未定	9	4.8
無回答	6	3.3
合計	189	100

表２　進路結果

	人数（人）	割合（%）
公立全日制	81	42.9
公立フレックス制	29	15.3
公立定時制	9	4.8
公立通信制	1	0.5
私立全日制	43	22.8
国立（高専など）	1	0.5
外国人学校	1	0.5
就職	2	1.1
帰国	4	2.1
未定	17	9.0
無回答	1	0.5
合計	189	100

表３　日本語指導「有」「無」別進路結果

		結果											合計
		公立全日制	公立フレックス制	公立定時制	私立通信制	公立全日制	国立	外国人学校	就職	帰国	未定	無回答	
日本語指導	あり（人）	4	8	5	—	8	—	1	1	2	7	—	36
		11.1%	22.2%	13.9%		22.2%		2.8%	2.8%	5.6%	19.4%		100%
	なし（人）	76	21	4	1	34	1	—	1	2	10	1	151
		50.3%	13.9%	2.6%	0.7%	22.5%	0.7%		0.7%	1.3%	6.6%	0.7%	100%
	無回答（人）	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	2
		50.0%				50.0%							100%
合計		81	29	9	1	43	1	1	2	4	17	1	189
		42.9%	15.3%	4.8%	0.5%	22.8%	0.5%	0.5%	1.1%	2.1%	9.0%	0.5%	100%

表４　国籍別進路結果

国籍	結果											合計	進学率
	公立全日制	公立定時制	公立フレックス制	公立通信制	私立全日制	国立（高専などを含む）	外国人学校	就職	帰国	未定	無回答		
日本	2	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	3	3
	66.7%				33.3%							100.0%	100.0%
中国	2	1	—	—	5	—	—	—	—	—	—	8	8
	25.0%	12.5%			62.5%							100.0%	100.0%
韓国	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	2
	100.0%											100.0%	100.0%
ブラジル	33	4	15	—	15	1	1	1	2	8	—	80	69
	41.3%	5.0%	18.8%		18.8%	1.3%	1.3%	1.3%	2.5%	10.0%		100.0%	86.3%
フィリピン	4	1	1	—	6	—	—	1	1	6	1	21	12
	19.0%	4.8%	4.8%		28.6%			4.8%	4.8%	28.6%	4.8%	100.0%	57.1%
ペルー	21	1	7	1	6	—	—	—	—	2	—	38	36
	55.3%	2.6%	18.4%	2.6%	15.8%					5.3%		100.0%	94.7%
タイ	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	2
	100.0%											100.0%	100.0%
ボリビア	—	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	2	2
		50.0%			50.0%							100.0%	100.0%
アメリカ	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1
	100.0%											100.0%	100.0%
コロンビア	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1	1
					100.0%							100.0%	100.0%
バングラデッシュ	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1
	100.0%											100.0%	100.0%
パキスタン	1	—	2	—	1	—	—	—	—	1	—	5	4
	20.0%		40.0%		20.0%					20.0%		100.0%	80.0%
ベトナム	3	—	1	—	2	—	—	—	—	—	—	6	6
	50.0%		16.7%		33.3%							100.0%	100.0%
イラン	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1
	100.0%											100.0%	100.0%
インドネシア	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1	1
					100.0%							100.0%	100.0%
モンゴル	1	—	1	—	—	—	—	—	1	—	—	3	2
	33.3%		33.3%						33.3%			100.0%	66.6%
ルーマニア	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1	1
					100.0%							100.0%	100.0%
パラグアイ	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1
		100.0%										100.0%	100.0%
アルゼンチン	2	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	3	3
	66.7%				33.3%							100.0%	100.0%
日本＋フィリピン	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	2
	100.0%											100.0%	100.0%
メキシコ	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1
			100.0%									100.0%	100.0%
コンゴ民主共和国	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1
	100.0%											100.0%	100.0%
スペイン	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	2
	100.0%											100.0%	100.0%
ネパール	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1	1
					100.0%							100.0%	100.0%
スリランカ	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1
			100.0%									100.0%	100.0%
無回答	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1	1
					1							100.0%	100.0%
合計	81	9	29	1	43	1	1	2	4	17	1	189	165
	42.9%	4.8%	15.3%	0.5%	22.8%	0.5%	0.5%	1.1%	2.1%	9.0%	0.5%	100.0%	87.3%

表５　母語別進路結果

		結果											合計	進学率
		公立全日制	公立定時制	公立フレックス制	公立通信制	私立全日制	国立（高専などを含む）	外国人学校	就職	帰国	未定	無回答		
母語	日本	2	1	—	—	—	—	—	1	—	1	—	5	3
		40.0%	20.0%						20.0%		20.0%		100.0%	60.0%
	中国	3	1	1	—	7	—	—	—	—	—	—	12	12
		25.0%	8.3%	8.3%		58.3%							100.0%	100.0%
	韓国	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1
		100.0%											100.0%	100.0%
	ポルトガル語	31	3	13	—	14	1	1	—	2	5	—	70	63
		44.3%	4.3%	18.6%		20.0%	1.4%	1.4%		2.9%	7.1%		100.0%	90.0%
	フィリピン（タガログ語）	4	1	1	—	5	—	—	—	—	4	—	15	11
		26.7%	6.7%	6.7%		33.3%					26.7%		100.0%	73.3%
	タイ語	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	2
		100.0%											100.0%	100.0%
	スペイン語	23	3	9	1	9	—	—	—	—	2	—	47	45
		48.9%	6.4%	19.1%	2.1%	19.1%					4.3%		100.0%	95.7%
	英語	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	2	2
		50.0%				50.0%							100.0%	100.0%
	ウルドゥー語	1	—	2	—	1	—	—	—	—	1	—	5	4
		20.0%		40.0%		20.0%					20.0%		100.0%	80.0%
	ベンガル語	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1
		100.0%											100.0%	100.0%
	ベトナム語	3	—	1	—	2	—	—	—	—	—	—	6	6
		50.0%		16.7%		33.3%							100.0%	100.0%
	インドネシア語	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1
		100.0%											100.0%	100.0%
	モンゴル語	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	2	1
		50.0%								50.0%			100.0%	50.0%
	ペルシャ語	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1
		100.0%											100.0%	100.0%
	ルーマニア語	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1	1
						100.0%							100.0%	100.0%
	フランス語	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1
		100.0%											100.0%	100.0%
	ネパール語	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1	1
						100.0%							100.0%	100.0%
	スリランカ語	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1
				100.0%									100.0%	100.0%
	日本語＋タガログ語	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	1
											100.0%		100.0%	100.0%
	日本語＋スペイン語	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1
		100.0%											100.0%	100.0%
	タガログ語とヴィサヤ語	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	2	2
		50.0%				50.0%							100.0%	100.0%
	日本語＋英語	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1
		100.0%											100.0%	100.0%
	無回答	3	—	1	—	1	—	—	1	—	3	1	10	5
		30.0%		10.0%		10.0%			10.0%		30.0%	10.0%	100.0%	50.0%
合計		81	9	29	1	43	1	1	2	4	17	1	189	165
		42.9%	4.8%	15.3%	0.5%	22.8%	0.5%	0.5%	1.1%	2.1%	9.0%	0.5%	100.0%	87.3%

Situation of Foreign Student after Junior High School Graduation in Gunma Prefecture: A Report of the First Survey Results

WAKABAYASHI Hideki

This document shows the results of the first survey on the situation of foreign students after junior high school graduation, conducted in Gunma Prefecture. The data comprises 189 foreign junior high school students. The main results are: the students' high-school continuation rate is 87.3%, and most of the students made their decision among these three types of high-school, 1) 81 students (42.9%) entered full-time public schools, 2) 43 students (22.8%), entered full-time private schools, 3) 29 students (15.3%), entered public flex schools. The continuation rate of students who received Japanese language coaching is 72.2%, from which only 11.1% entered full-time public schools. The number of students who did not received Japanese language coaching is 151, from which 76 students, (50.3%) entered full-time public schools is other important finding of this survey. Regarding Special Admission System for foreign students, although 19 students had qualifications for application, only one student applied.

（2015 年 6 月 1 日受理）